

黒田官兵衛の居城

# 馬ヶ岳城跡



御所ヶ岳から馬ヶ岳を望む

## 「馬ヶ岳城跡」の概要

**所在地** 福岡県行橋市大字大谷・西谷  
福岡県京都郡みやこ町犀川花熊

**概要** 標高216mの馬ヶ岳と、その山麓に築かれた山城。黒田官兵衛の九州最初の居城として知られる。山麓部分の土塁、畝状堅堀群などの遺構は、平成25年11月1日に行橋市の史跡に指定された。

**交通** 馬ヶ岳城西谷駐車場(行橋市大字西谷477番地奥)より約900m(徒歩約15分)  
平成筑豊鉄道「豊津駅」より約2.5km(徒歩約30分)

行橋市教育委員会

## 豊前の要衝、馬ヶ岳城

馬ヶ岳城は、福岡県行橋市とみやこ町の境に聳える標高216mの馬ヶ岳と、その山麓に築かれた山城です。馬ヶ岳の名前の由来は、二つの峰からなる山の形が神馬に似ていることによるといわれます。

馬ヶ岳城は天慶5年(942)に源経基が築いたと伝えられ、新田氏など歴代城主の伝承が残されていますが、確かな記録から歴史がたどれるのは室町時代の応永12年(1405)からです。

今に伝わる古文書からは、馬ヶ岳城が豊前地域の戦略上の重要拠点で、さまざまな勢力の攻防の舞台であったことがわかります。とくに中国地方を拠点として大きな勢力をもった大内氏や毛利氏、豊後を拠点に北部九州に勢力を拡大した大友氏などが、豊前地域の支配をめぐるこの城の争奪戦を繰り返しました。



●馬ヶ岳中腹(展望台)から見た本丸(右)と二ノ丸(左)



●本丸跡といわれる馬ヶ岳の山頂には、新田氏の表忠碑が建てられています。

## 秀吉と馬ヶ岳城

天正14年(1586)、天下統一をめざす豊臣(羽柴)秀吉は、停戦命令に従わない島津氏の征討を決定し、黒田官兵衛を軍奉行とした部隊を九州に送りました。当時馬ヶ岳城主であった長野三郎左衛門が、秀吉方に服属したことから、馬ヶ岳城は秀吉の勢力下に置かれました。

翌、天正15年(1587)には、秀吉自ら遠征軍を率いて3月28日に九州に上陸しました。「殿下(秀吉)が昨日、馬ヶ岳城に到着し、明日には秋月方面へ向われる」と記した官兵衛宛の書状が残っており、秀吉が3月29日に馬ヶ岳城に入り、2泊したことがわかります。秀吉は4月1日には岩石城を攻め落し、秋月を経て島津氏攻略に向かいました。

同年5月には島津氏が降伏し、秀吉の九州平定は完了しました。

## 黒田氏の居城、馬ヶ岳城

九州平定後の天正15年(1587)7月、秀吉から豊前6郡、約12万石を与えられた黒田官兵衛は最初、馬ヶ岳城を居城としました。官兵衛がこの城を居城とした理由は、古くからこの城が豊前支配の拠点であったことと、豊前南部に黒田氏の支配を不服とする宇都宮氏など地元勢力がまだ多くいたためだと考えられます。

官兵衛と長政父子は馬ヶ岳城を拠点に、黒田氏に抵抗する地元勢力の平定を進めました。他国に出向き、たびたび城を離れた官兵衛に代わり、長政は度々馬ヶ岳城から出撃し、強敵宇都宮鎮房らと激しい戦いを繰り返しながら、領内の抵抗勢力を鎮圧していきました。

天正15年(1587)の末には、黒田氏と宇都宮氏が和睦し、豊前南部の情勢もようやく安定しました。おそらくこの頃、黒田氏は馬ヶ岳城から中津の地へと拠点を移したと考えられます。居城が中津城となった後も、馬ヶ岳城は支城として黒田氏の領内統治を支えました。



●馬ヶ岳城本丸からの風景



●主要地方道椎田勝山線から見た馬ヶ岳城

## 馬ヶ岳城への登山

現在は登山道が整備されており、行橋市大谷登山口と、みやこ町犀川花熊登山口の2つがあります。



大谷交差点

### 公共交通機関をご利用の場合

平成筑豊鉄道「豊津駅」を下車し、今川を渡ったのち「天生田橋」交差点を1.2km直進。「大谷」交差点の石碑から細道に入り600m進むと登山口に到着します。



大谷登山口看板(右が登山道)

### 車をご利用の場合

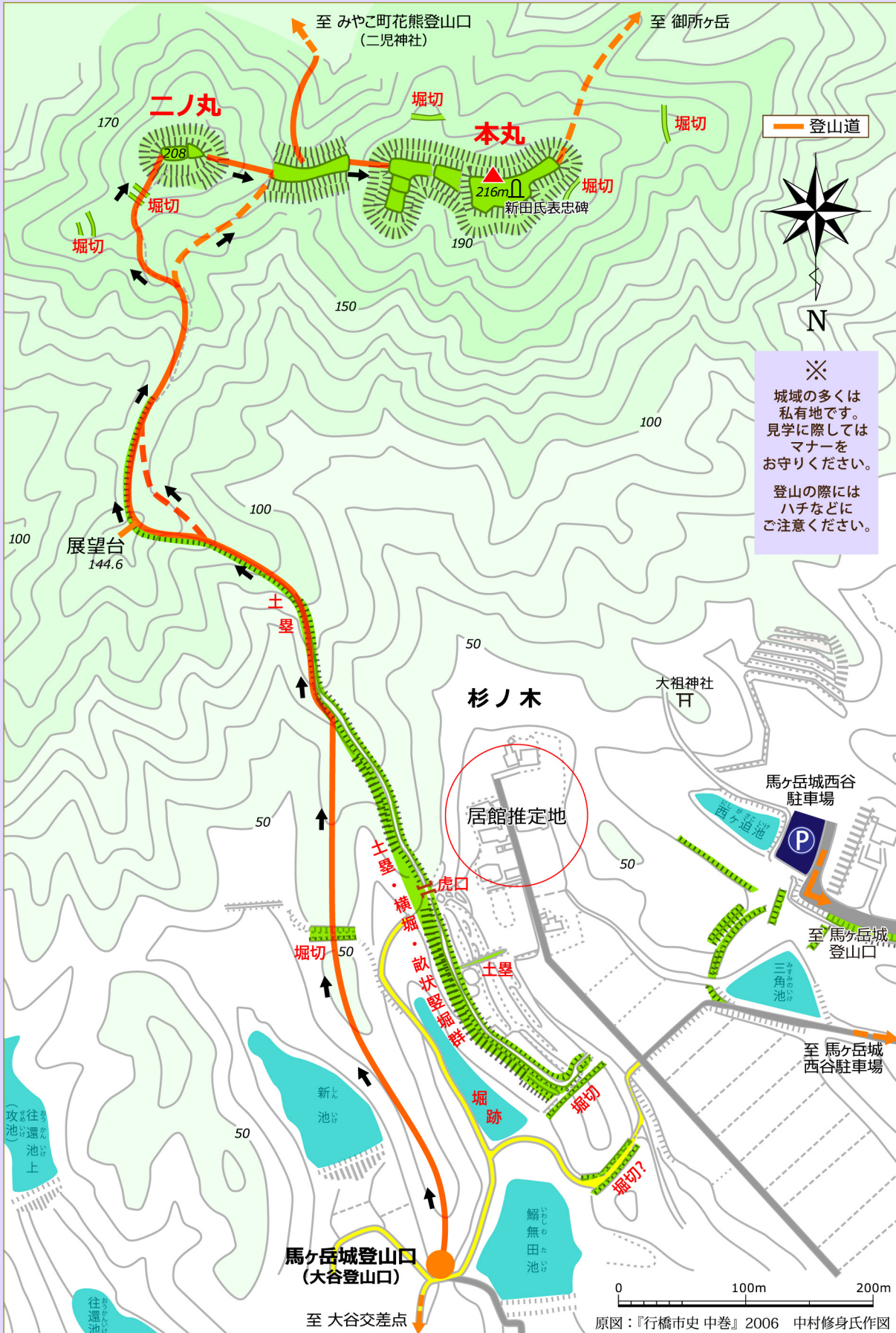
みやこ処理場奥にある「馬ヶ岳城西谷駐車場(行橋市大字大谷477番地奥)」から、看板表示に沿って約900m(徒歩約15分)で登山口に到着します。

- 大谷登山口から
  - ▶山頂まで... 1430m(徒歩約40分)
  - ▶畝状堅堀群(虎口)まで... 400m(徒歩約6分)



# 馬ヶ岳城跡見学マップ

・大谷および花熊の登山道以外のコースは道に迷いやすいため注意してください。  
 ・登山には十分な装備のうえ、時間に余裕を持って登り、ごみは持ち帰りましょう。



※  
 城域の多くは  
 私有地です。  
 見学に際しては  
 マナーを  
 お守りください。  
 登山の際には  
 ハチなどに  
 ご注意ください。

山城とは、山に土木工事をほどこして、山そのものを要塞としたものです。馬ヶ岳城では、東西二つの峰の山頂を平坦に削り曲輪とし、西側が本丸跡、東側が二ノ丸跡といわれています。

また、東の峰から北に下る尾根には、約700mにわたる長い土塁や畝状縦堀群も確認されています。ほかにも堀切、切岸といった、山城ならではの防御施設が多く残されています。

江戸時代になると、山城はほとんど使われなくなり、大坂城や中津城のような平城が中心となります。中世の山城から、近世の平城への城郭の変遷を考える上で、馬ヶ岳城は貴重な史跡です。



土塁



畝状縦堀群

## 用語説明

- 土塁…土を盛り上げて壁のようにして、敵の侵入を阻止する土手状の防御施設。
- 横堀…等高線に並行して掘られた堀。
- 堀切…山の尾根を堀で切断して、攻めにくくしたもの。
- 虎口…城や曲輪の出入り口で、簡単に侵入されないような工夫が施されていることが多い。
- 曲輪…平坦に整地された城内の区画。
- 切岸…敵が登りにくいように山の斜面を削り崖とした箇所。
- 畝状縦堀群…土塁や斜面に対して縦方向に掘った縦堀を連続させ、攻めてくる敵の動きを妨げる防御施設。

# 馬ヶ岳城跡へのルート



■お問合せ■  
**行橋市教育委員会 文化課**  
 〒824-8601 福岡県行橋市中央1丁目1番1号  
 TEL 0930-25-1111 FAX 0930-25-1582  
<http://www.city.yukuhashi.fukuoka.jp/>

**行橋市歴史資料館**  
 休館：火曜  
 〒824-0005 福岡県行橋市中央1丁目9番3号  
 TEL 0930-25-3133 FAX 0930-25-3138